

大和名所圖會

吉野郡

六
坤



部	門	番	号
		一〇	四九七

竹林院

晴の社より所あり社金剛寺より
宮坂町とて喜藏院の如くあり

當院より頼朝卿乃所教書

一章

義経建討の
書簡あり

射御新流の一卷あり

院内恒藏の内射御乃
名譽あり吉尼和依

米田多門系

核公椿寺

釋書白目藏上人修りの地は上人と云所乃人より
二女の時よりおろし道賢法師といふと云より
か断く延喜十六年二月より六年の精修は終らぬと云り其時母君乃

其母を拜ふと云入る望窟ふ
恒好いしと云や

布引櫻

けをよりりかんこ
さくさくなりぬ

布引の櫻と云相より谷のをまきと云
てさくさくなりぬ

布引の櫻と云相より谷のをまきと云
てさくさくなりぬ

天皇橋

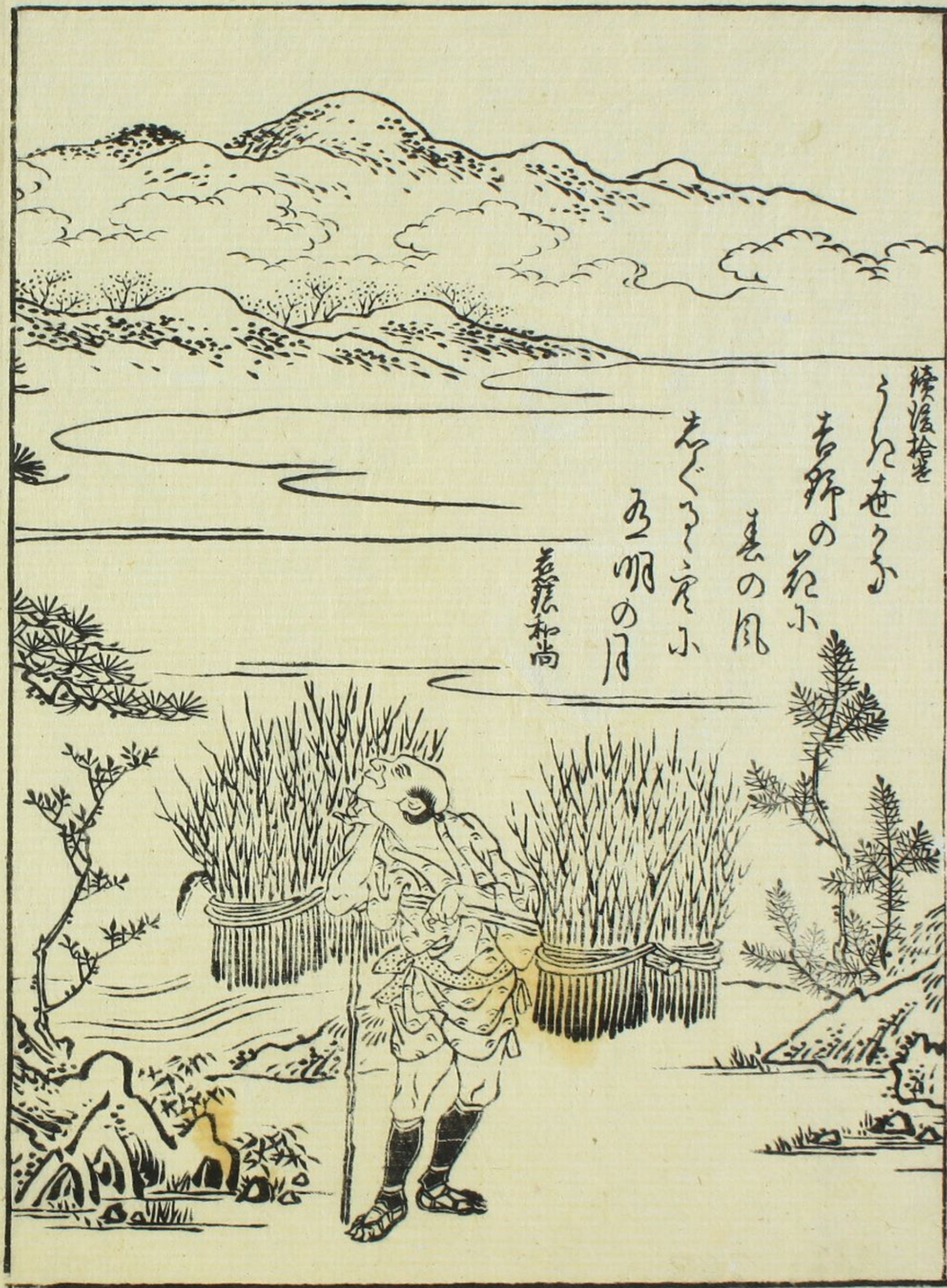
天皇櫻 梵天社 櫻川坂

雨師模親老堂

るやぬざりぬれど

け里の丹生の川上後ちういのを晴よ久月雨乃を
後醍醐天皇

けより一里より川下小舟生ゆ所の社あり
親老堂なる西の谷に遊橋を井橋といへあり



苔は清なる あり法師の殿裏あり正面堂よりあるあり堂の邊より遊あり
 落は清なる あり法師の殿裏あり正面堂よりあるあり堂の邊より遊あり
 画像ありけし新しきもの多し
 初しは白きなる生し 蒼苔葺巖に封して 冷なる滴し幽
 邃閑寂あり 遙く塵寰に隔り 掌くあり上人のこころせ乃
 思ふ相ふらに 展ね入真小香爐 峯小結び 樂天の草室
 しとしいはなる

山家集

漢くともうやまびんあわし我小こころの井乃あり あり上人

吾邦記

花小のそ思ひまらけむ若井のやまのこころの系

花考井 推草

伯船集

西上人のまればいかりのありのありの奥の院
 より右の方二町をゆり入程東人の
 谷なるをこころいといとありし
 中より乃清なるむむのり
 中より乃清なるむむのり
 末落々也

ある坊小一なるあり

礎ありくらしむふこころせしや坊の妻

いそふ

露中よりくくふふふの世さるるや

全

凍るるく雪小汲干は清なる水

全

湘夕

苔は清なる あり法師の殿裏あり正面堂よりあるあり堂の邊より遊あり
 落は清なる あり法師の殿裏あり正面堂よりあるあり堂の邊より遊あり
 画像ありけし新しきもの多し
 初しは白きなる生し 蒼苔葺巖に封して 冷なる滴し幽
 邃閑寂あり 遙く塵寰に隔り 掌くあり上人のこころせ乃
 思ふ相ふらに 展ね入真小香爐 峯小結び 樂天の草室
 しとしいはなる



新後拾巻

いらねをよの 秋は涼

かたきまじ

かびさし

あはれ

うね名

まろん

乃姦法師

八十八

大瀧 名をも大瀧と云り頭住密助曰おのり大川の急流あり

急流 水勢が急流なり

流落 流れて落ちる

遠く 遠くを眺める

賞 賞を賜ふ

矢 矢を射る

鎧 鎧を着る

龍泉寺 龍泉寺あり

吉野皇居 吉野皇居あり

大刀屋 大刀屋あり

予 予あり

日本紀曰神武天皇東征乃時

大瀧 大瀧あり

射 射る

國 國あり

神 神あり

皇 皇あり

武 武あり

天 天あり

皇 皇あり

影 影あり

石 石あり

琵琶 琵琶あり

井 井あり

先 先あり

宅 宅あり

址 址あり

御 御あり

影 影あり

大臺原北へ川上莊あり北の莊小属を辨岳新嶺とてく

巴大臺原の巴嶽小あり古那川のあ上うくく人の通入ありあは

古那川そのあよなるむら乃新嶺はたゆ

大臺原そのあよなるむら乃新嶺はたゆ

後考あり又上の奇出する未考

大和巡遊記曰大臺原小巴の淵とてうたあり古那川新嶺川古那の宮川

宮川 古那川のあよ

妹背と金剛寺 川上莊神孫谷 本尊は地蔵とて南帝自天三陵

あり拵は本尊とて後優婆塞海方利生のくわ小金堂とて一千日 籠もく生身の薩埵は新むひ小の地蔵尊の像とて地より

涌出し給ひ公優婆塞の心小柔忍辱の所くく末世

の流生いぞ利益ありやとて地藏尊が堂小ありとて地蔵

とて小涌出の地藏尊優婆塞

鹽華花衆あり高十丈

菊岩屈 正善山石窟 聖天山石窟 共小柏木村あり 窟中小石鐘乳あり凝結ん

珠王纓珞の状とて石鐘乳のふら都名所圖會拾遺

不動岩窟 柏木村あり 窟の口窄隘して偈く入るの教百歩あり窟中小遊

ありなる源窮るのみ下流古那川小潜通と

柏木坐神祠 柏木村小あり十二社権現と称と

國栖窪坂内教子大那南國栖那小村 公事根元白 元日節會 二秋一

國栖奇筆の奏とて是古那の國標人ののこ應神天自十九年十月 小古那宮小の奇あり一昨酒なるりて然とて



耳我嶺

窪堀村の上方小あり山勢盤結みしと出崎の地一説小吉野
の異名を八を神抄云々を小くしたといふ

万葉

一平万葉の耳我嶺小対するを云ふりひるひまふを雨のりる
加茂真淵曰御出嶺入意なりん人小けのくくたれなる清和天皇
御製
るあひん御金高とを得りん原氏お借小神いひめさうト又今昔お告
りも美金の多さるるを書し皇朝のむしりや金のあやどざりし時小
ころのそく名づけんおんはる後人ゆかりなくありひるりしるのあさささ
迎はれ大和國ののささるもの小耳我嶺は金峯の外にありしと
うく考へりしと也しと地理のささいなりんはうく考へりしと也
金は埋るる張勒の出世を傳しり入ぬるも例の處とて小中しと云々

國栖

南國栖村の上方小あり峯巒疊嶽ありしと申す
喜依谷村上方小あり八を神抄曰象山系中しと云ふりしと云々

小牟漏岳

小牟漏岳は村の上方小あり青峯高聳く聳へ嶽は
小牟漏岳は村の上方小あり青峯高聳く聳へ嶽は

丹生神祠

小村あり小川莊七村の
丹生神祠は氏神は神宮寺あり

象山

喜依谷村上方小あり八を神抄曰象山系中しと云ふりしと云々
象山は喜依谷村上方小あり八を神抄曰象山系中しと云ふりしと云々

新撰

はとふくて皆杜風が舞ふるはと云は乃すのりしと云ふ順徳院
大和後小越しと道に級小なり象の中しと云ふりしと云々

象小川

象小川は係青根山嶽よりかきりく外象樹公過す
象小川は係青根山嶽よりかきりく外象樹公過す

王業

むしりみしと云ふは今もいしと云ふりしと云々成小けり
よの心青根山嶽小月を象の小川に玉をまのりしと云々

假寝橋

一名外象橋
假寝橋は一名外象橋

丈夫

櫻木神祠

表佐谷村
櫻木神祠は表佐谷村

古事記曰

櫻木の言はと宮籬のやうに小くはと云ふりしと云々
流の系はたれ小くはと云ふりしと云々

箕箕川

表佐谷村
箕箕川は表佐谷村

万葉

古事記曰
古事記曰

新撰

ふつふの川若狭と云ふる疾小と云は乃すのりしと云々
ふつふの川若狭と云ふる疾小と云は乃すのりしと云々

續千載

ふつふの川若狭と云ふる疾小と云は乃すのりしと云々
ふつふの川若狭と云ふる疾小と云は乃すのりしと云々

花籠水 右野山記曰葉摘里小花籠のありてくろ水あり
又後葉摘が志むくく住しを委ぬあり

吉魚張 ふつり里のやくりるまじ
我宿の葉摘色づく吉魚張の夏笠の上小時なる

日 吉魚張の夏笠のうらのこがせくあききり月の影を 家持

御船 葉摘里の東南小あり外よりこれなるをこしやらの取のぬ
坂路花陰一蔵王堂のち花の東小川く

万葉 勝のうれに船より秋は色小さかいつらん花喚子も

新勅撰 みづは舟のこふままの常小ありむと我をそふく小人誓

後撰 勝のうれに舟のこふままの常とふ上て鳴ぬ日花たかこ 正二位を氏
後撰拾遺

日 けは舟のこふままの常とふ上て鳴ぬ日花たかこ 平海時

櫻尾 櫻尾村上方小あり支那が日暮と

後撰 日くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 菅原右大臣

日晩 中莊葉摘村
日晩 小あり

新勅撰 亭子噴宮嶽が津波一は津佐小くくくくく
日くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

川上鹿鹽神社 櫻尾村の南國極三村の界小あり今大新明社と

榎井坐神社 榎井村小あり是日宮と林に中莊七邑

宮籠 宮籠村小あり 兩涯は葉摘みく怪石磊砢く南の岩小巨石あり

壁のぬ 流下九重淵小臨んく善水練る者石頭より 中投

く流 流と小随く下流小出くく飛流くく人くくと壯觀く

代々の帝もくくにりまあり

菅原御記 昌泰元年十月廿五日宮嶽ふくく遊ぶまをくらふ日ける

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

和刻遺蹟記曰
 官廳へ遊ばわくばあ方に
 大岩あり其向か
 ちや川まがら
 ぬ岩い大なる岩
 うりや岩のえとこ
 入りえうり風
 とまごら
 ぬ岩のり川れ
 産ごらなり
 せよれ木たあり
 大いこにむく
 せよれい水ま
 水は入る水ま
 川下にむく
 里人^{いひ}は^{いひ}を^{いひ}そ
 岩のこり
 水は入る水ま
 川下にむく



昔く人小川を
 泳ぎしんは
 とれあ
 岩にそあ
 せあせて飛入
 水中に一ま
 入くあ
 とれい
 ありとい



後撰

宮の勝むも名ふさしきつへり落る白波の玉とゆけむ法皇御製

後拾遺

秋ふゆも人の宮勝のたれ白泡よまらやとそん

心家集

宮勝の滝れもよるひもん古たをゆれ乃ゆわのあり

秋古帖

勝なる宮勝川の波りりもんの庭れもむ心地をる

懐風藻

万丈崇巖削成秀千尋素濤逆折流

遊吉野川

欲訪鐘池越潭跡留連羨稻逢槎洲

同

友非于禄友實是食霞賓從歌臨水智長嘯樂山仁

同

梁前招吟古峽上篋聲新琴樽猶未遊明月照河濱

清原

藤原萬里

千載

暁ふらりや志ぬらん月影のほろほろ来ふちりふくさり

秋古帖

むと玉の夜れまのむ樹せの清原来りちりけくさり

新千載

みよはる大の母もるの古柳うけとせり久保まをさうたり

新古

うら波と大川舟への勝が屋も及ぬ勢ふも中をゆあり

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新千載

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

新古

今も氷も解ぬ玉の勝の宮古もまわさるらん

神明井

下園村の路傍小 大の庭 下園村あり

夢回端

御料莊新住村あり 御中ふ

遊副川

吉野川の舊名久仁寛抄曰ゆ八川

多藝津の内

奇枕曰大和國

隴御門

宮勝の秋はの宮かうら

隴浦

藤原州曰京祇法師の庭

大の河辺

巡遊日記曰宮勝よりいりふ大の河をさうりる名所あり

篋橋

宮勝のふくし木橋

榎口の原

榎口の原

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

大の河

法皇良塚 今本村小あり 敏明天皇の皇孫 建王の塚之日本紀云々

新漢南墓 日村小あり 俗小大塚 黒彦皇子 履輪王の塚之日本紀云々

今本寺 日村小あり 一名石光寺 又名弥勒寺 今本堂あり

伯耆國小寺 小住寺あり 遷入法師 寛弘年中 初建

親世名の靈 蒙りて 小至りて 夜光あり ありや

石面の教業 ありて 弘明の尊の像あり 彫はけり

人工の業 小ありて 別荘舎あり 建くる

祥瑞あり 入寂あり 釋

藥水井 某村小あり 疫癘あり 邑人長壽の多

幡神祠 北莊七村の氏神

比蘇寺 池田莊比曾村小あり 推古天皇二年四月 淡路海の中

沈水香 帝小献りて 聖徳太子の御衣の雞古乃

その花子 その時 沈水香と云ふ

入く久 久は 帝歎ひ

観者の像 ありて 現光寺と云ふ

栗天 書 額あり 中玉林抄あり

興聖菩薩 法ありて 今本堂あり

嶋天神祠 池田莊麻志口村小あり 椿井あり

宇治向 千俣村 宇治乃の風を 徳ありて

吉野水分神社 丹治村あり 古く水分会の聖

神社 に遷りて 文武二年 月神馬あり

六北 行 紀ありて 海蔵初 復吉野

丹治川 飯原ありて 古く丹治

丹治川 飯原ありて 古く丹治

丹生川上神社 丹生村小あり近藤四村の氏神と云ふ 系神罔象女神より

伊弉册尊河邊越のこふやのけし終ひぬ其よりさんく 終入

の同小生神植と名おふび水神罔象女神よりさんく 日本 天武天皇自風

雨の委承よりけし社小雨と云霧雨と云やれさるるの勅使よりけり

の四元小入へり又神武天皇の所宇小入磯城と云賊ありけり

帝足が返落せんとも牛牧巖免と云り丹生の川上小のゆかりして

天神地神と云ふまのり日本紀小入へり

丹生寺 丹生村 善徳寺 丹生村小あり境内小安満了願の墓あり

白銀嶽 古田莊夜中村小あり銀嶽と云ふ南より金嶽と云ふあり

波寶神社 銀の冢あり今神藏宮と称は古田莊

檜の迫川 名原檜の迫の冢あり

波比賣神社 檜村の冢あり今黄金宮と称は境内由計まき

鷹巢山 立川波村小あり山嶺高くそむ一樹は楓と云り鷹の巢あり故小

名と云ふ中ふ多呑嶺あり大新川のゆかり

立川渡坐神祠 立川波村小あり今天王と称を 禪龍寺 立川波村

乘鞍山 本谷村小あり 白瀑布 西中村小あり

隴山 天川莊和田村小あり 惣門瀑布 坪の内村小ありと樹青秀と云

伊波多神社 和田村小あり今立和宮と称は

稻邑嶽 天川莊洞の嶽あり

朝鮮嶽 梅邑嶽の嶽ありと云お連と云樹本法蓮と云

天川 名水より水保の上の嶽より流るる洞川の北に流るる合寺あり

長秋詠藻 右のよ花やちるるの川のま乃つみかありと云るは 後成

龍泉寺 洞小あり上の嶽より流るる清水と云

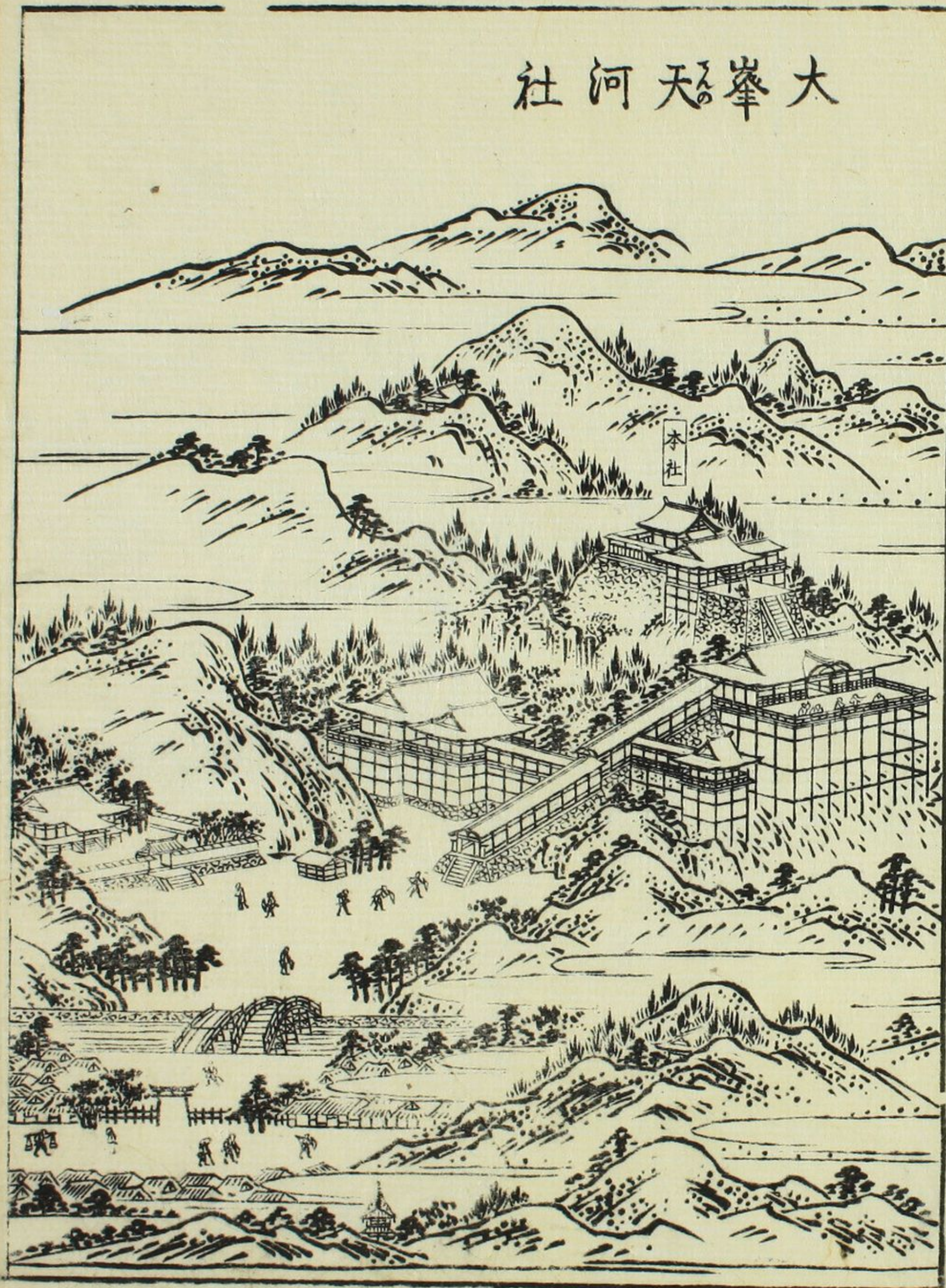
燈籠洞 洞小あり流るる教百ありと云るありふたれと云小池と云る

將軍塚 十二村莊北侯村小あり石碑十三ありと云る左右に羅陣は里人毎年十月

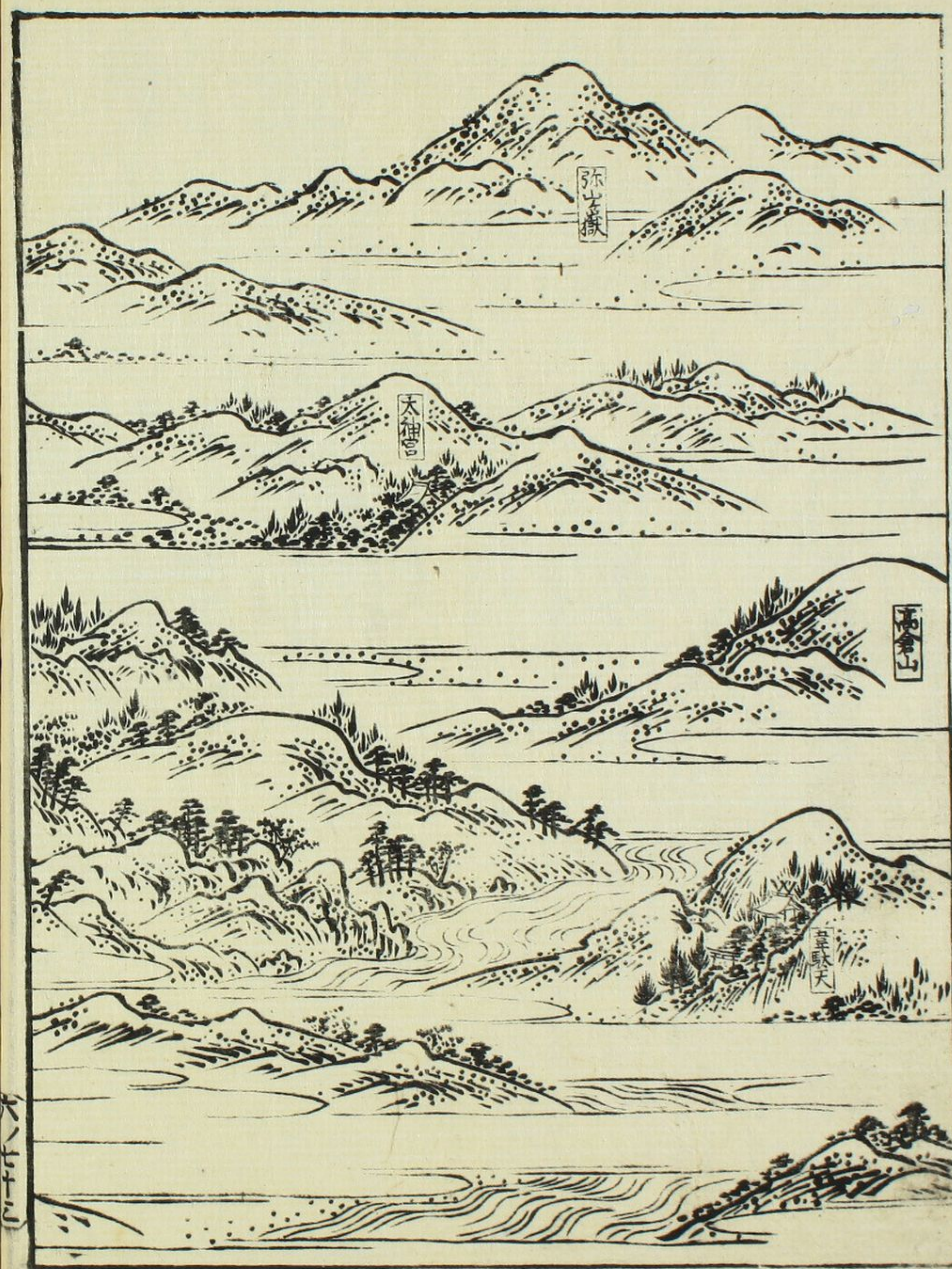
池津川 名原池津川のの中よりありと云

中津川 中は川に至る大侯川小入

大峯天河社



本社



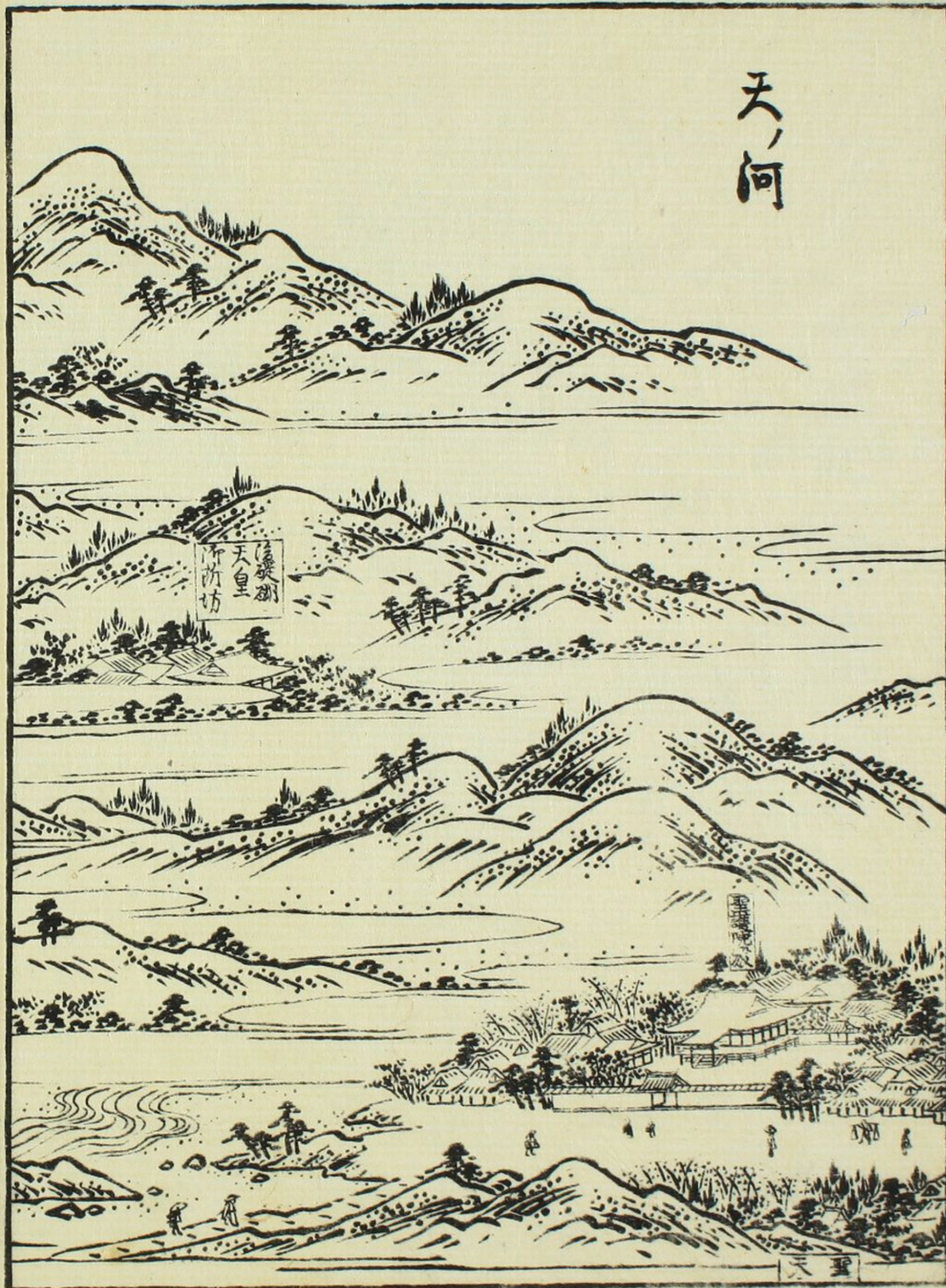
弥山嶽

大神宮

高野山

天歌堂

天ノ河



左京紫雲寺の御石
天の川は石窟小
入定一のり
河海抄小
又々々



琵琶山白飯寺

延和元年村 役行者大老の嶮路をひたつて

之はとみく靈驗を待たぬいふ岩窟小湊水つさぶるに神靈

山光のややくと廟あり琵琶の響あり人心の迷をかくし

より琵琶と號せり其後弘法大師に來り十日の法を

每敷天女現しぬいけは其尊像を彫刻し神靈を鎮めたる

天川每敷天足之又宗像神祠も崇む天川莊二十一村

氏神も正殿拜殿御厨所十二の小祠四箇の怪石二所の湧泉

あり寺公妙喜院と號せし觀音堂地藏堂藥師堂行者堂

護摩堂二重寶塔僧舎之宇 理性院神福寺 あり又護良親王

寓居の所を御所坊といふ 則末述院 又什寶蘇悉地經乃跋

書と僧正仁海之化疏一章は山門秀海派と其外正平年中乃

繪青元中九年中務卿の令旨あり

池津川神祠 池津川村小あり 乾と 紀列の畧あり

小壺山

池津川紫園二村の上方小あり一名金山又高山

荒神岳

北は池津川二村の畧あり

四所明神祠

十津川莊折立村小一座あり小系村小一座あり

藥師堂

十二村莊堂平村 玉置川 玉置川村小あり

玉置神祠

玉置川小あり舊事紀曰紀伊國忌部遠祖手帳置員村あり

別玉置氏より僧坊四舎あり

行岡八布墓

十津川莊玉井川村の

七面山

御との舟川莊藤村の東小あり

玉置山

玉置川村北一里小あり

十津川

名水あり天の川の下流に諸村あり

一と芳野のといふ所の十津川の山は亦もあはせ世に公也

玉垣内坐神社

西川谷十村の 氏神あり

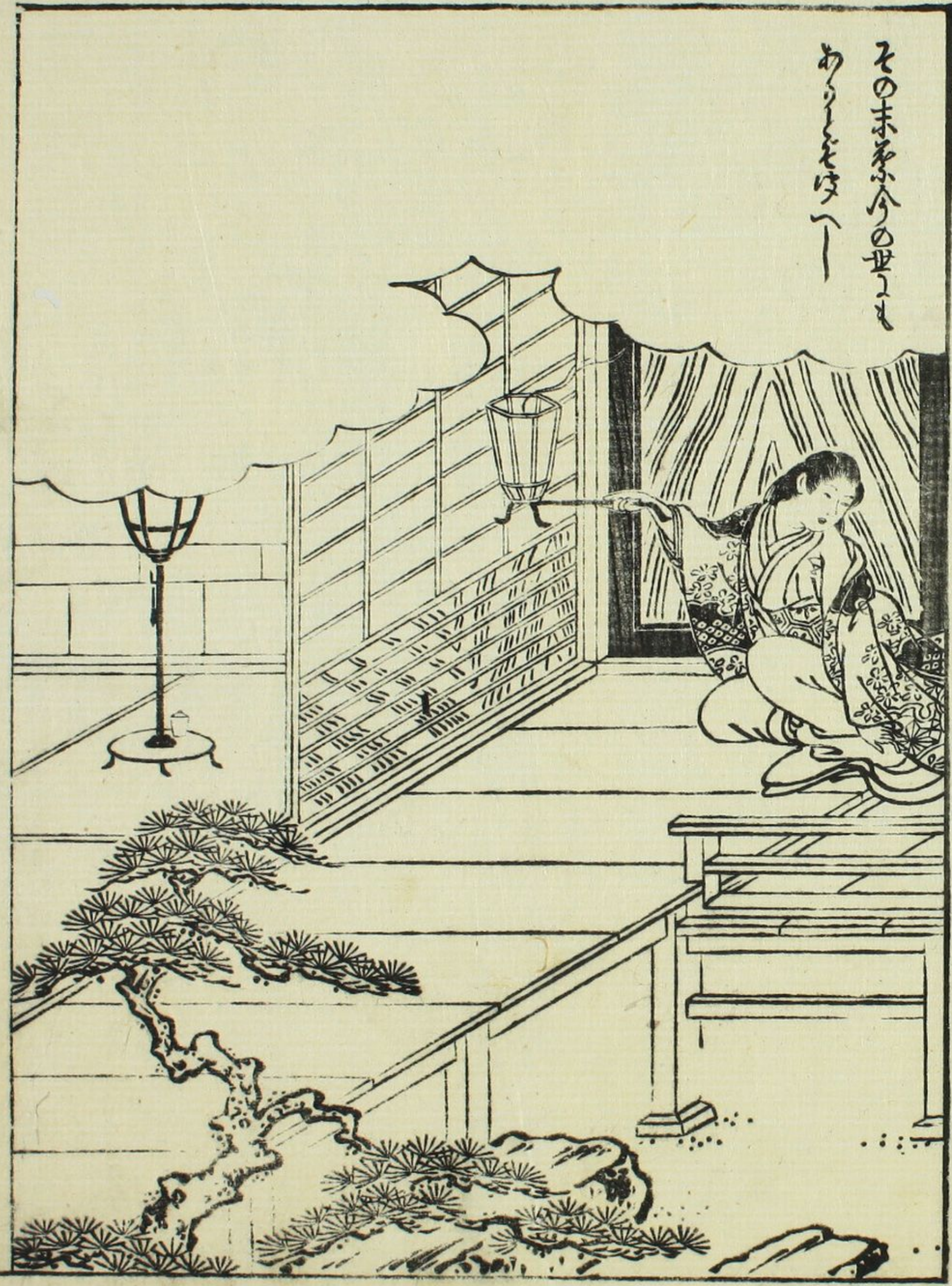
國言

大塔宮



殿^の兵衛^を
十^村の^庄殿^村
小^のの^り大^塔宮^え
二^心初^をと^のの^所と
く^くく^く徳^をく^り
落^させ^あひ^し十^津川^と
小^の所^着か^つは^て
竹^不八^節入^道の^の
甥^い小^の戸^孫を^清
と^しい^のの^の
家^にま^ら〜
入^せら^る〜
大^平元^化に^あ〜^り

その末^を小^のの^世も
あ^ら〜^をは^へ〜



高瀧 長三十二丈 十二瀧 七久村小あり急流飛瀧あり

中村坐神社 十津川莊中村小あり今王子権現と稱は

小松山 十津川莊葛川の東小あり 行者高 小松村あり山巔部山の

湯系温泉 二所小あり一所は十津川莊湯系村にあり一所は同莊武藏村に

小大和園小あり十津川の温泉小を修めり

類字名所玉葉集 湯の系小鳴戸川つごとく妹小こふとやとれたらと鳴 入道族入

無終山 十津川莊兼畑村西南小あり谷出つとて家遠一故

和田峯 上湯川村の上小あり

寒野川 十津川内中流にあり十津川小入

去来

三浦坐神社 十津川谷六村 西坐神社 徳尾新宮と称は西

芙蓉精 十津川村小あり山の形差峨とて紀列の畧

瀧川 十津川内中流にあり十津川小入

清納瀑布 十津川莊大新村 分坐神社 庄中戸の属村川分村

天神祠 二所あり一所は引土村小あり一所は井清名考の氏村あり

伯母子嶺 今ある村の南小あり十津川莊源系村の畧

大瀧 十津川 俱小十津川莊小系村小あり

草瀬 十津川 温泉 東泉あり小あり

崎坐神社 十津川 氏神あり

寶藏寺 十津川 莊五百原村小あり俗修曰

平維盛墓 十津川 古石あり古老曰壽永年中乱

佐久間信盛墓 十津川 莊武藏村光明寺小あり石碑あり

天正四年七月十二日

白屋嶽 白屋村より 高系山 高系村の上

備後山 北山莊の合村あり 紀州鬼之嶽 險峻

出谷川 真砂川小至く西川小入 風屋籠 風を村小あり

西川 兼細小至く十津川小入 小井籠 兼細村小あり

備後川 紀州より流るる大塚小至く

憩息石 兼細村茶店の麓小あり 俗曰 護良親王の休憩の跡ありと云

池峯池 北山莊池峯村の頂小あり 涇水藍の如く 樹木環繞

池峯坐神祠 氏神あり

河津國王神祠 二層林村小あり 本宮と稱し 境内小井あり

林泉寺 北川莊白川村小あり

異像籠 長敷村小あり 深淵清狭く 形勢

水合神祠 小井村小あり 北山莊五村 相昔小教系に

白瀧山寶泉寺 北山莊西野村小あり 本尊 觀世音菩薩 北山内泉村

興泉寺 永亨九年丁巳二月建立 向山車僧と云 北山内泉村

王住山龍川寺 北山莊小井村小あり 傳曰 南帝皇居の古址之 後小當院

神位 康正三主丁丑十二月二日又遺教經 跋曰 寶徳二年庚午之秋 建當寺云々

芋瀬莊司宅址 兼細村

竹原八布宅 兼細村小あり 大塔宮 護良親王と云

尼妙圓宅 兼細村小あり お供の物圓大塔宮小

池原川 一名北山川と云 東川西川各池原小あり 兼細の属村

依田川 兼細村小あり 紀州小入

葛川溪 兼細地蔵岳より流るる 葛川小入

安曾川 兼細北山より流るる 紀州小出又神小入 兼細安房小入

柳本渡 兼細村小あり 獨木梁 兼細村小あり 十津川小入

上渡下渡 兼細池原村小あり 神小入 竹筒村小入

山上 毎来四月八日
 より九月八日まで花人物
 さらの目毎に参りてい入
 摩訶般若の御安座様よ
 う、山上より六里あり
 七月のほいかに當り入
 修験道かよ伏入峯に
 峯中に二百八十餘の
 岩窟あり猫跡窟
 聖天窟菊窟笠窟
 蝙蝠窟あつてハ人
 あり猫跡窟ハ深
 くの二所余窟の
 窟は人いり
 真に池あり
 菊窟ハその
 岩こころく



菊の紋が
 せりま外修
 験道の秘所
 うれい
 とくまの





くわんてん



世説

高山の北小窟の晋人

つる十日をうりみりて室内

明くくくくくくくくくくく

峯と圍むの老翁二人

あり晋人に一盞の酒菓

と進む忽爾中にやぐす

年一つ一つ落す小唄り

又張華といふ人々を

びく新羅館

飲くくくくくくくく

玉漿吟

くわんてん

龍穴の石髓

うりみり

長壽ありと名

我朝の山に樹の

山石窟とくくく

紙巻のつらきあはれんくつ小文武天皇大寶元年七月七日壽齡
六十八年一母なる神小入竹の多なる流小く之諸と又海入く
後之のいふ定小道昭法師と稱く小あり一財新羅の中一
してしるる虎小遠一とその中一役乃著の流の虎あり一詞か
導一と心師鍊和尚と定ふはけり一〇代のたひんそへらと
とり釋言乃ひ西巻お
小くくくこれとひ一たつたことと不二の巻一中
来臨一とくくおりのく人のをゆるくと心中華みくく此これ
他人くくおりのゆと一水鏡小くく一人大寶元年入定より
今寛政二年小至く千九十余年小あり
丈夫老の役優婆塞くくひりたひり一より聖衆はくく
中級一ゆと一通修一と荆棘のくくくくく小醍醐乃聖寶
僧止くくく心教靈岳小空一くくんやんくくく再び開基一くひ
一吉野よりゆりか本こと一聖一又洞門より南四十町かゆりか當こと
さめは又遊ことくく人足聖堂多解のひりたひり

釋迦嶽 御山の南五里 一名轉法輪岳と云り一郡内の諸と一秀く最

雄峻 ゆき 遠く眺めは石狀基石が布がゆ一

善鬼里 北山莊十五村の内あり 本と當山御入峯乃時け里一止宿

一 ゆき 善鬼村あり遠く眺めは扇風がまきるや一

扇風巖 善鬼村あり遠く眺めは扇風がまきるや一

善鬼川 小代の邑小至く西川小入

都藍尼 和州の人あり一當國 じう一古所との標小都藍尼とく入化

女あり金峯とて美合の地ゆ一蔵王権現の靈域とてを女人か
のほく一わねに我女かく化術が得たりいくくくあやとどは
あしんやとく大峯共の道の小やけ忽雷電霹靂くく
通流かく一か一其所く杖か捨たりく其杖枝多かゆ一
大木とるゆ又咒文を吐く龍かよひ昇其龍小糸一七龍は
一くく至りく龍もとみえく都藍尼つべやとかがく

都而一千五百有餘葉也故名區
勝蹟頗多無或詠於和歌或咏於
詩賦亦不可舉而計矣越延寶中
村氏著和州舊跡幽考又近頃滕
島言欵撰大和名勝志而僅之分
許而沒無予近年著都名所圖會
前後之而編倚其圖而以此其
蓉府告於予彼島言之遺志迺得
其草稿而以此撰大和名所圖會七
卷唯憾如得王烈之抱犢山之石
室之一書不亦求於東也敢非傳之
文史聊以幸遺命而已

寬政之歲次辛亥年四月

永安 秋里 舜福 湘夕



